

日本透析医学会による「わが国の慢性透析療法の現況」によると人口あたりの透析導入数は熊本県が全国第1位と不名誉な記録を打ち立てており(2010年)、中でも上天草市は腎硬化症による透析導入が多く熊本県でも上位を占めていた。

みすみ病院では2007年より腎不全外来を開設し保存期腎不全の管理や腹膜透析の導入・維持、ブラッドアクセスの管理を行ってきたが、2009年3月に地域開業医との地域連携懇話会の場で慢性腎臓病(CKD:Chronic Kidney Disease)地域連携パスの提案があり同年4月から試験運用を開始した。その後、6月には上天草市役所の健康作り推進室(行政)より参加協力要請があり同年8月よりCKD地域連携パスの本格的運用が開始された。

このシステムは当院の電子カルテ上の連携パスシートに直接データを入力し、印刷した専用シートを地域のかかりつけ医にお渡しする形で運用され診療情報提供書の役割を兼ねている。

患者さんはあらかじめ決められた一定期間の間隔で、かかりつけ医と専門医の間を受診することで腎不全の抑制効果を検証することになる。このCKD連携パスを利用した共同診療による腎不全抑制効果の成果はすでに日本クリニカルパス学会誌や雑誌「パス最前線(秋号)」(エルゼビアジャパン出版)などで紹介されており新しい医療連携のモデルとして全国的にも注目されている。

前年度までは済生会熊本病院からの泌尿器科医師により腎不全診療が行われてきたが2013年4月から新たに腎臓内科医である町田健治医長が加わり現在、毎週火曜日午後診療および第4週水曜日の午後に診療が行われる予定である。

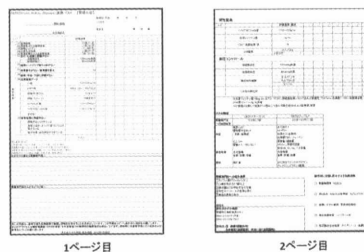
現在、当院で加療している保存期の慢性腎臓病の患者さんとCKD地域連携パスを用いて共同診療を行っている患者さんを含めて約100名近くの患者さんが腎臓病外来に通院している。

また年に数回、上天草地域のかかりつけ医との間で連携会議を開催し、年1回、外部講師を招いて上天草CKD連携パス運営会議を開催することで連携パスの効果判定を検証するとともに腎臓病に関する知識向上に向けての取り組みも行っている。

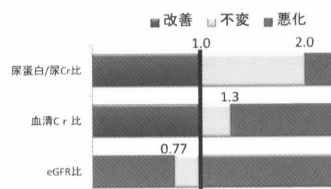
### 上天草CKD連携パスの変遷

2007	腎不全外来開設(保存期腎不全、CAPD、アクセス手術)
2009	地域開業医とのCKD対策懇話会(CKDパス提案)
4月	CKDパス試験運用開始
6月	CKD連携会議開催(行政の参加、協力表明)
8月	CKDパス本格運用開始(医院4、病院1、診療所1)
2010	CKD連携パス講演会開催(熊本病院TQMより運用成果公表)
2011	済生会熊本病院TQM部よりデータ入力のためのME派遣
2012	第1回上天草CKD連携パス運営会開催(第一三共機共催)

### 連携パスの改訂(第3版) (2部構成)



### 判断基準(Post/Pre)



### 全症例の効果判定結果

n=67

